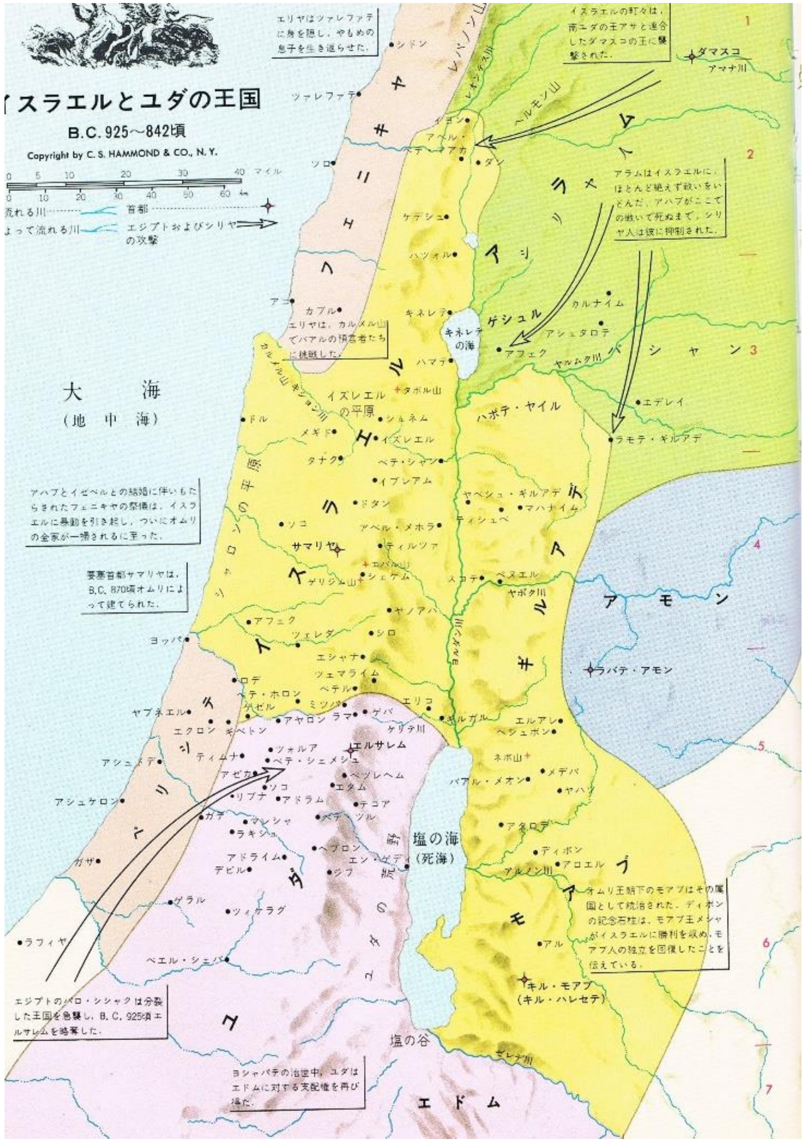

2022 年 2 月 20 日　説教「アハブによる肉の行い」

列王記第一 21 章 1 ~16 節

アハブ王はアラムのベン・ハダデ王の命乞いを受け入れ、契約を交わして、国に帰しました。それを、預言者から責められて、怒るアハブでした。

１．**アハブとナボテ（1～4）**

①ナボテのぶどう畑（1）**「このことがあって後のこと。イズレエル人ナボテはイズレエルにぶどう畑を持っていた。それはサマリヤの王アハブの宮殿のそばにあった。」**アハブが聖絶をしなかったという出来事の後のことです。イスラエルの北方にあったイズレエル出身のナボテはぶどう畑を所有していました。ところが、そこはアハブ王の宮殿の近くにありました。

②先祖のゆずりの地（2～3）**「アハブはナボテに次のように言って頼んだ。『あなたのぶどう畑を私に譲ってもらいたい。あれは私の家のすぐ隣にあるので、私の野菜畑にしたいのだが。その代わりに、あれよりもっと良いぶどう畑をあげよう。もしあなたがそれでよいと思うなら、それ相当の代価を銀で支払おう。』ナボテはアハブに言った。『主によって、私には、ありえないことです。私の先祖のゆずりの地をあなたに与えるとは。』」**アハブ王はナボテにぶどう畑を相当の代価で譲ってもらいたいと願いました。しかし、ナボテは民数記 36:7 に「イスラエル人はおのおのその父祖の部族の相続地を堅くまもらなければならない」という御言葉にもあるように、主にあって譲る事はできないと答えました。

③顔をそむけ（4）**「アハブは不きげんになり、激しく怒りながら、自分の家に入った。イズレエル人ナボテが彼に、『私の先祖のゆずりの地をあなたに譲れません。』と言ったからである。彼は寝台に横になり、顔をそむけて食事もしようとしなかった。」**アハブは激しく怒り、家に戻って、ベッドに横になり、食事すらしようとしませんでした。彼はわがままで、大人気なく、すぐにふてくされる傾向がありました。

２．**イゼベルの悪巧み（5～10 節）**

①イゼベル（5～6）**「彼の妻イゼベルは彼のもとに入って来て言った。『あなたはどうしてそんなに不きげんで、食事もなさらないのですか。』そこで、アハブは彼女に言った。『私がイズレエル人ナボテに、“金を払うからあなたのぶどう畑を譲ってほしい。それとも、あなたが望むなら、その代わりのぶどう畑をやっても良い”と言ったのに、彼は『私のぶどう畑はあなたに譲れません。』と答えたからだ。』**妻

イゼベルがやって来て、不機嫌の理由を尋ねました。彼はナボテがぶどう畑を譲らないと、不満をぶちまけました。彼としては、代価も払うし、ナボテにも良い対応をしているのに、言うことを聞かないことに業を煮やしていたのです。

②イゼベルの進言（7）**「妻イゼベルは彼に言った。『今、あなたはイスラエルの王権をとっているのでしょう。さあ、起きて食事をし、元気を出してください。この私がイズレエル人ナボテをあなたのために手に入れてあげましょう。』**イゼベルは夫に、あなたは王でしょう！食事をして元気を出しなさい！ナボテのことは私にまかせなさい。あなたのために、ナボテのブドウ畑は手に入れますから心配なく。イゼベルの狡猾そうな顔が目に浮かんできます。

③悪巧み（8～10）**「彼女はアハブの名で手紙を書き、彼の印で封印し、ナボテの町に住む長老たちとおもだった人々にその手紙を送った。手紙にはこう書いていた。『断食を布告し、ナボテを民の前に引き出してすわらせ、彼の前にふたりのよこしまな者をすわらせ、彼らに“おまえは神と王をのろった。”と言って証言させなさい。そして、彼を外に引き出し、石打ちにして殺しなさい。』」**イゼベルはアハブに成り代わって、手紙を書き、アハブの印で封印し町の長老達や重鎮に手紙したのです。その内容は、ナボテを石打ちの刑にするための策略でした。ナボテが神と王の呪ったと、よこしまな者達に証言させるというものでした。

３．**不正な裁き（11～16）**

①ナボテを裁きの座に（11～12）**「そこで、その町の人々、つまり、その町に住んでいる長老たちとおもだった人々は、イゼベルが彼らに言いつけたとおり、彼女が手紙に書き送ったとおりを行った。彼らは断食を布告し、ナボテを民の前に引き出してすわらせた。」**イゼベルがアハブの名をかたって出した手紙の力は絶大でした。町々の長老達、重鎮は、言われた通り、断食を布告。ナボテを裁きの座につかせませました。

②石打ちの刑に（13～14）**「そこに、ふたりのよこしまな者が入って来て、彼の前にすわった。よこしまな者たちは民の前で、ナボテが神と王をのろった、と言って証言した。そこで人々は彼を町の外に引き出し、石打ちにして殺した。こうして、彼らはイゼベルに，『ナボテは石打ちにされて殺された』と言ってよこした。」**　そこに予定通り、二人のよこしまな者達が座り（申命 17：6）、偽りの証言をしたのです。ナボテが神と王を呪ったと偽証したのです。レビ記 24:16 には「主の御名を冒瀆する者は殺される」とあるのを用いて、彼らはそのことを理由に石打ちの刑にしたのです。イゼベルの策略通りに事は動きました。

③ぶどう畑をとりあげに（15～16）**「イゼベルはナボテが石打ちにされて殺されたことを聞くとすぐ、アハブに言った。『起きて、イズレエル人ナボテが、あなたに売ることを拒んだあのぶどう畑を取り上げなさい。もうナボテは生きていません。死んだのです。』アハブはナボテが死んだと聞いてすぐ、立って、イズレエル人ナボテのぶどう畑を取り上げようと下って行った。」**ナボテが石打ちの刑で死んだことを聞くと、イゼベルはアハブを元気づけます。「あなたの言うことを聞かなかったナボテは死んだのよ。すぐにあのブドウ畑を取り上げて！」アハブは言われるままに、立ってそれを実行するために出かけていったのでした。

《結論》

今朝の記事の中に出てくるナボテは、ダビデが罪を犯した時に、ダビデを諭した預言者ナタンのたとえ話に出てくる貧しい人に似ています。富んでいる人には多くの羊や牛がいたのです。貧しい人は小さな雌の子羊を一頭だけ持ち、自分の娘のようにして育てていたのです。ところが富んでいる人は、旅人をもてなすために、貧しい人の大切な子羊を取り上げて、調理して客に出したというのです。ダビデはこれに激怒しましたが、ナタンに「あなたがその男です」と言われ、目を覚まし、悔い改めていくのでした。ナボテはこの貧しい人のようには貧しくはなかったでしょう。ぶどう畑を持っているほどですから、それなりの財産があります。しかし、アハブ王の力の前には、圧倒的に弱い存在でした。ナボテは、アハブとその妻イゼベルにひねりつぶされてしまいました。イゼベルの策略で、神と王を呪ったという罪を着せられて、石打ちの刑を受けることになってしまったのです。ナボテは、いくら王が言うことでも、主なる神の前に、先祖から受け継いだ土地については譲らず、律法に従おうとしたのです。このようなナボテに、弱い者いじめをしたのが、アハブ、イゼベル夫妻です。

アハブ王は妻イゼベルとともに、偶像神バアルを奉じてきました。しかし、神はイスラエルの王であるアハブを立ち直らすべく、手を差し伸べてくださいました。アラムのベン・ハダデが圧力をかけ、大勢力で押し寄せてきた時にも、少数でイスラエルに勝利を与えてくださいました。翌年、アラムが逆襲してきた時にも勝利を与えてくださいました。その都度、預言者が送られて、アハブが主を知るために、主が憐れんでくださっていることが告げられていました。しかし、アハブはハダデを見逃し、国に帰らせて、主との関係は元の木阿弥。彼は悔い改めようとしませんでした。

アハブはナボテのぶどう園を見た時に、自分のものにしたくなりました。しかし、信仰に基づいて拒否されたアハブは、怒り、ふてくされたのです。今年の御言葉「御霊によって歩みなさい」（ガラテヤ 5：16）の直後には、肉の行いについて記されています。肉という

のは、生まれながらの人間のあり方、価値観のことですが、その行く先には、「不品行、偶像礼拝、魔術、敵意、争い、そねみ、憤り、分裂、分派、ねたみ」などがあるのです。アハブはナボテに拒否されて、肉のるつぼのなかに巻き込まれました。横になって食事さえしないほどでした。そこに、イゼベルがやって来て、肉の働きを膨らませます。アハブの話を聞いて、ナボテを無き者にする方策を実行してしまうのです。『人はそれぞれ自分の欲に引かれ、おびき寄せられて、誘惑されるのです。欲がはらむと罪を生み、罪が熟すると死を生みます。』(ヤコブ 1:14、15)。とありますが、イゼベルと結託して、アハブは新たなる罪に沈み、悔い改めようとしないのです。「さまよう人々立ち返りて」(讃美歌 239) とありますが、さまようアハブが立ち返るのを主は忍耐強く見守ってきてくださいました。私たちも罪人で、弱い者たちです。しかし、主は手を差し伸べてくださっています。今こそ主の前に立ち返って行こうではありませんか。